

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 岡山県岡山市北区内山下 2-4-6
管理機関名 岡山県教育委員会
代表者名 教育長 鍵本 芳明

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日（契約締結日） ～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 岡山県立岡山城東高等学校

学校長名 前川 隆弘

類型 グローカル型

3 研究開発名

「ステージは『世界』だ！」～岡山発グローバルリーダーの育成～

4 研究開発概要

学校設定科目「学類コア科目」と総合的な探究の時間「GLOBAL I・II・III」を教科横断的に連動させ、地域と連携して、郷土岡山の地域課題を踏まえ、創造的・批判的思考力を育成しながら、本校の類型である学類の専門性を生かした課題研究に取り組む。並行して、海外研修の充実、留学の促進、海外姉妹校等からの訪問の受け入れや英語教育の改善により、グローバルな視野と多様性の理解、高度な英語運用能力を育成する。また、学類の専門性を生かした地域ニーズに基づくボランティア活動、生徒会活動の活性化により、自主性・自律性を育成する取組を強化し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて、将来、地域社会を支えたり、国際社会で活躍したりする「岡山発グローバルリーダー」の育成カリキュラムを開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岡本 弥彦	岡山理科大学・ 教育推進機構 教職支援センター教授	課題研究の手法に関する指導
小川 正人	環太平洋大学・ 国際・教養教育センター センター長	グローバル人材育成や探究学習に関する指導
神崎 浩二	岡山県経済団体連絡協議会・事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知見
国定 啓人	山陽新聞社編集局・局次長	グローバルな社会課題、地域課題に関する知見
杉山 慎策	中国学園大学・中国短期大学・副学長	高度な英語力の育成に関する指導
谷一 尚	一般財団法人林原美術館・館長 山陽学園大学・副学長	地域文化に関する知見 グローバル人材育成に関する指導

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
岡山県	知 事・伊原木 隆太
岡山市	市 長・大森 雅夫
岡山県経済団体連絡協議会	座 長・中島 博
岡山大学	学 長・榎野 博史
岡山県立岡山城東高等学校	校 長・前川 隆弘
岡山県教育委員会	教育長・鍵本 芳明

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家			
海外交流アドバイザー	朴 浣	岡山県県民生活部国際課国際交流推進員	県庁職員の業務の一環として
	アラン・チャンプリス	岡山県県民生活部国際課国際交流員	県庁職員の業務の一環として
	大塚 崇史	岡山県教育庁高校教育課指導主事（主幹）	県庁職員の業務の一環として
地域協働学習実施支援員	木科 孝夫	岡山県教育庁生涯学習課社会教育主事（総括主幹）	県庁職員の業務の一環として
	大塚 崇史	岡山県教育庁高校教育課指導主事（主幹）	県庁職員の業務の一環として

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム会議の実施		1回					1回					1回
海外交流に関する教育への支援				1回		1回			1回			1回
学校での地域協働学習への支援	1回				1回			1回			1回	1回
運営指導委員会の実施							1回					1回

(2) 実績の説明

①コンソーシアムについて

○令和2年5月29日 第1回会合

- ・学校が昨年度の成果と課題、本年度の実施計画について説明した。
- ・コンソーシアム各機関から、本事業に対して本年度の支援方法や支援内容について提案がなされた。

(岡山県・岡山市)

- ・地域密着の課題研究に対する支援や自主性・自律性を育成する取組についての提案
自治体が実施しているボランティアの紹介、講演会の協力、小学生への学習支援ボランティアや、オンラインでの事業実施の提案

(岡山県経済団体連絡協議会)

- ・地域密着の課題研究に対する支援についての提案
企業訪問の協力、事前指導の在り方

(岡山大学)

- ・地域密着の課題研究に対する支援や異文化交流の深化についての提案
大学教員・大学生の派遣、教員の課題研究の指導力向上、ルーブリックを活用した指導と評価の一体化

○令和2年10月13日 第2回会合

- ・学校が今年度10月までの取組の進捗状況を説明し、成果や課題を示した。
- ・コンソーシアム各機関から、自らが関わった取組の報告や、学校の説明に対して、あらたな支援等の提案がなされた。

(岡山県・岡山市) 地域課題に対する行政の取組紹介、SDGsの学習の在り方

(岡山県経済団体連絡協議会) 企業訪問実施後のフィードバックの在り方に対する提言

(岡山大学) コンピテンシーベースの評価の在り方、大学教員の派遣、指導の在り方

○令和3年3月23日 第3回会合

- ・学校が今年度の取組について、成果と課題を示した。
- ・運営指導委員からの指摘も踏まえながら、コンソーシアム各機関から、自らが関わった取組の総括や、次年度に向けての支援等の提案がなされた。

(岡山県・岡山市) 地域課題の設定の在り方、ICTを活用した探究活動について

(岡山県経済団体連絡協議会) 県経済同友会作成の「SDGsマップ」の活用について

(岡山大学) 研究開発成果の評価の在り方と研究指定終了後の取組の方向性について

②カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

- 令和2年4月15日 岡山城東高等学校への学校訪問
 - ・令和2年度事業における活動計画について協議した。「国際交流」「外国語教育推進」に関する教員研修、外国人留学生の交流について指導助言を行った。
- 令和2年5月29日 第1回コンソーシアム運営会議に出席
 - ・令和2年度の海外研修中止の場合のオンライン交流の在り方について協議した。
 - ・会議後、今後の実施方法について指導助言を行った。
- 令和2年10月13日 第2回コンソーシアム運営会議に出席
 - ・ICTを活用したオンライン海外交流の在り方について協議した。
 - ・会議後、今後のオンライン交流の実施方法について指導助言を行った。

③地域協働学習実施支援員について

- 令和2年4月16日 岡山大学訪問（学校同席） 課題研究に係る打合せ
- 令和2年4月17日 岡山県経済団体連絡協議会訪問（学校同席） 企業訪問の打合せ
- 令和2年10月26日「地域と連携した『高校の魅力化』フォーラム」（岡山県教育委員会主催） 1年次生の研究発表について指導助言

④運営指導委員会について

- 令和2年10月13日 第1回会合 ※第2回コンソーシアム運営会議と同日実施
 - ・学校が今年度10月までの取組の進捗状況を説明し、成果や課題を示した。（運営指導委員からの主な指導助言）
 - ・新学習指導要領で求められる資質・能力
 - ・コロナ禍でのオンライン活用、対面での取組の充実
 - ・キャリア教育の充実
 - ・生徒一人一台端末の効果的な活用
- 令和3年3月23日 第2回会合 ※第3回コンソーシアム運営会議と同日実施
 - ・学校が今年度の取組の成果と課題、次年度の計画について説明し、各委員から、取組の目標設定と評価の在り方、岡山城東高校ならではの取組の在り方、グローバル人材育成のための課題などについて、具体的な指導助言を受けた。

⑤管理機関における主体的な取組について

- (ア) 国費に上乗せした独自の支援や取組の実施、教員の人事面における配慮等
専門性等を考慮した教員配置やALTの重点的配置、語学指導の充実のための非常勤のネイティブ教員配置の充実等、学校内の教員体制における人的な支援を継続して行っている。
- (イ) 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について
管理機関と岡山大学は、本事業に関する連携協定を締結し、取組の強化を図っている。
その他のコンソーシアム機関についても、地域密着の課題研究の取組への支援、自主性・自律性を育成する取組におけるボランティア活動等への情報提供など、事業における様々な取組に関する連携の充実を図っている。
- (ウ) 事業終了後の自走を見据えた取組について
岡山県では、令和元年度、岡山県立学校にコミュニティ・スクールを導入できるように規則改正を行ったところであり、岡山城東高等学校のコンソーシアムをコミュニティ・スクールに移行することの検討も含めて、管理機関とコンソーシアムが連携した、学校の取組支援体制の継続を図るための研究を行っている。また、引き続き、事業継続のために必要な教員数の確保や、専門性を考慮した教員配置を行っていく。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営会議の実施		1回					1回					1回
運営指導委員会							1回					1回
教育改革推進委員会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
GLOBAL I の実施			2回	3回	1回		3回	2回	4回	6回	2回	
GLOBAL I のアンケート (生徒)											1回	
GLOBAL II の実施	3回		8回	7回	6回	4回	6回	7回	5回	6回	4回	
GLOBAL II のアンケート (生徒)									1回		2回	
講演会の実施			1回					1回				
企業訪問					4回							
カリキュラム・マネジメント委員会				1回	1回		1回	1回	1回			
スキル学習のアンケート (生徒)			1回	2回	1回	1回						
GPS-Academic (1年次・2年次)									1回			
外国語指導に係る研究授業						1回	1回	1回	1回		1回	
外国語教科科会議	2回	1回	3回	1回	4回	2回	1回	3回	2回	1回	1回	2回
外国人留学生との交流												1回
全学類の専門性を生かした社会貢献活動				1回	1回	2回	2回	2回	1回		1回	1回
生徒会活動や委員会活動の活性化			1回	2回	2回	3回	3回	3回	2回	2回	2回	1回

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

研究指定校では、目指す人材像を「グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材」「郷土や日本への貢献意識を持ちながら、国際社会で活躍する人材」と設定し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて「地域密着の課題研究」「異文化交流の深化」「自主性・自律性を育成する取組」の3つを活動の柱として研究開発に取り組んでいる。

- ・地域密着の課題研究では、「総合的な探究の時間（1単位）」として「GLOBAL I」を1年次生全員に実施した。年度の前半には教科横断的なりサーチスキル学習を取り入れ、課題研究に必要な研究手法の基礎を学習した。夏季休業中には企業訪問を実施し、各企業がビジネス上の戦略と関連付けながら地域課題やSDGsにどう取り組んでいるかなどについて学習した。9月以降、グループに分かれSDGsに関連する研究テーマで課題研究の演習を実施した。
- ・異文化交流の深化では、高度な英語運用能力やグローバルな視野の育成と多様性の理解を目的としたディスカッション、ディベート、リスニング、スピーキングを重視した授業改善を行うため、指導者として大学教員を招聘し、校内教員研修や公開授業を実施した。ま

た、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止となった海外研修の代替として、オンラインを活用した海外研修を導入し、生徒の英語による課題研究の取組も行いながら実用的な英語運用能力を活用できる場を設定した。

- ・自主性・自律性を育成する取組では、これまで学校が独自に行っていたボランティア活動以外のボランティアについても広く生徒に周知し、昨年度より充実した活動を実施した。また、学類の専門性を生かした社会貢献活動として、音楽学類の生徒がオンラインを活用して、福祉施設（老人ホーム）と合唱や交流活動を行った。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け (各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等)

(a)「GLOBAL I」：総合的な探究の時間（1単位）

- ・教科横断的なリサーチスキルの学習
- ・県内企業訪問でグローバルな地域課題の学習
- ・SDGsの17のゴールを参考に地域課題やグローバルの視点を踏まえた課題研究

(b)「学類コア科目」：学校設定科目（1単位）、「GLOBAL II」：総合的な探究の時間（2単位）

- ・「学類コア科目」と「GLOBAL II」を教科横断的に連動させ、学類の専門性を生かした課題研究

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

「GLOBAL I」において1年次の担任と各教科の教員が連携し、課題研究の取組が充実するようリサーチスキル学習を行っている。今年度は新たにシンキングツールの活用を導入し、より課題研究が充実する内容とした。また数学科と情報科が連携し、全生徒に統計グラフコンテストへの応募作品を作成させ、優秀な19作品を応募することができ、必要な統計スキルの意識付けとなった。

- ・研究手法・文献調査：研究手法の種類と文献調査の仕方（地歴科教員担当）
- ・統計：偏差値の求め方を例にとった統計法の紹介（数学科教員担当）
- ・仮説・実験：仮説を立てたうえでの実験、検証（理科教員担当）
- ・シンキングツール：シンキングツールの種類と効果的な使い方（GLOBAL係教員担当）
- ・研究倫理・インタビュー：結論の導き方やインタビュー法（国語科教員担当）

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム・マネジメント委員会を設置し、教育課程全体をマネジメントするとともに、その下部組織としてカリキュラム・マネジメント小委員会、カリキュラム開発係及びグローバル係が各取組の成果、課題等の分析を行っている。学校自己評価において、「城東高校の授業は主体的な学びを促すように工夫している」「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」「城東高校は授業や学校行事、講演会などを通じてグローバルな視野を育てようとしている」の質問項目について、特に1年次生は高評価であり本事業の目的を理解した上で学習活動に取り組んでいる。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

学校全体で事業に取り組めるように次のとおり校内組織を編成し、主任と係が連携をとり研究を実施している。

係名	主任	係
カリキュラム開発係	教務課長補佐	教務課長、指導教諭、学類主任
地域連携係	生徒課長	生徒課社会貢献係、学類主任、年次事業担当、地域連携担当
国際交流係	国際課長	国際課
外国語教育推進係	外国語科研究主任	外国語科、外国語科指導教諭
情報発信係	総務課長	総務課
記録係	図書課長	図書課、進路指導課、事務室
会計係	事務室	事務室

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

コンソーシアム運営会議への参加や、適宜来校によって、企画内容への指導助言や研究開発の推進のため、コンソーシアム各機関との連絡・調整を行った。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

毎月、コアメンバーが出席する教育改革推進委員会を開催し、本事業についての進捗状況の確認や協議を行っている。

（コアメンバー）

校長、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、教務課長、学類主任（人文社会・理数・国際教養・音楽）、年次主任

（必要に応じて出席するメンバー）

カリキュラム開発係主任、地域連携係主任、国際交流係主任、外国語教育推進係主任、情報発信係主任、記録係主任、会計係主任

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

年3回開催されるコンソーシアム運営会議において、コンソーシアム各機関からは学校の説明を踏まえ、今後の事業の進め方や目指す人材の育成に繋がる取組の提案などカリキュラム開発に関して積極的な意見をいただいている。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

課題研究では年2回、岡山大学の教員から生徒の研究内容について指導助言を受けた。また、県内企業訪問では、各企業の取組の紹介や、ワークショップを通じて、SDGsに関する活動について多面的に考える機会を得た。

年2回の運営指導委員会では、それぞれの専門的見地から取組について広く指導助言を受け、取組に反映させた。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

グローバル型の「グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーの育成」という点を踏まえ、1年次では、課題研究においてSDGsの17のゴールに関連するグローバルな社会課題を研究テーマに設定し、研究を実践した。企業訪問において、本年度は生徒がそれぞれの課題意識に基づいて訪問する企業を選択し、事前学習を行った上で実施した。2年次では、4つの学類のコア科目ごとに合計10グループを編成し、さらに各グループを数班に分けて課題研究に取り組んだ。課題研究の質的向上を図るため、地域におけるフィールドワークを充実させ、グローバルな視点を持ちながらより柔軟な発想で地域課題に対する解決策を追究させた。

⑪成果の普及方法・実績について

2月3日には本校で課題研究発表会を開催し、年次の代表グループが研究成果を発表した。さらに同日、研究成果や課題について報告する成果報告会を、県内外の教職員を対象に実施した。3月5日には県内WWL拠点校、連携校の合同課題研究発表会において代表生徒2グループがプレゼンテーション発表及びポスターセッションを行った。その他、「地域と連携した『高校の魅力化』フォーラム」（県教育委員会主催）、「Global High School Meetings 2021」、「WWL・SGH×探究甲子園」においても生徒が課題研究の発表を行っている。

3月に研究開発実施報告書を作成し、県内高等学校及び県外研究指定校（地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）研究指定校）に送付するとともに、岡山県教育庁のホームページに公開し、成果の普及に努めた。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 地域密着の課題研究「GLOBAL I」・「GLOBAL II」

1年次「GLOBAL I」において、リサーチスキル学習では昨年度実施のPC操作の内容をシンキングツールの活用に変更し、より課題研究の充実につながる内容とした。リサーチスキル学習後のアンケートでは、その後に取り組む課題研究への意欲を尋ねたところ、「楽しみである」の割合が5回平均34.4%であった。昨年度との違いは、1回目のアンケートから意欲の高い生徒の割合が高く、5回通してこの割合が維持されていた。1年次後半では、SDGsの17の目標が設定された背景や、169のターゲットなどについて理解を深めさせるとともに、探究活動においてSDGsの観点を踏まえた地域の課題やグローバルな課題を見だし、研究を深めさせるため、コンソーシアムと連携し、岡山市市民協働局市民協働部SDGs・ESD推進課による講演会を実施した。生徒からは「身近な岡山でもSDGsの具体的な取組があることを知った」、「これからの課題研究に生かすことができそうだ」といった感想があり、ほとんどの生徒が地域課題とSDGsのつながりに関心をもち、今後の探究課題への意欲を示している。

2年次「GLOBAL II」において、生徒に「GLOBAL IIは楽しいですか」というアンケートを行った。肯定的な回答の割合は72.2%であった。学類特有のコア科目と連動した課題研究であり、得意分野を生かした活動であることが大きく関わっているのではないかと考えられる。

12月に実施したGPS-Academic調査の結果から、批判的思考力の上位評価（S及びA）の割合は1年次が31%、2年次が41%であり、創造的思考力の上位評価の割合は1年次が20%、2年次が30%であった。批判的思考力は概ね目標に近いが、創造的思考力は全国との比較からも課題があると分析している。「将来、地元で暮らしたいか」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は41%であり、昨年度の調査結果より微減した。

(2) 異文化交流の深化

英語の公開授業について、計画は3回であったが、校内研修も公開授業として案内した。

- ・ 9月14日（月）3年次の授業。指導教諭公開授業を兼ね、他校から28名の参加。
- ・ 10月26日（月）1年次の授業。他校から13名の参加。
- ・ 11月16日（月）2年次の授業。他校から5名の参加。
- ・ 12月18日（金）1年次の授業。ALT（外国語指導助手）との協同授業推進研修会を兼ねる。他校から8名の参加（小学校から1名）。

上記の他、2月1日（月）には、2年次の授業を校内研修として実施した。

CAN-DO リストを生徒に配布し、各年次の達成目標を提示した。授業立案においては、CAN-DO リストを参考にしながら、継続的な活動と各レッスンに特化できる活動を担当者が考え、年次内での打合せを行い、外国語科の研修会（公開授業等を含む）で共有を図った。

スピーキング指導を取り入れた授業については、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱのウォームアップ帯活動として各レッスンの題材と関連性のある話題でショートスピーチを行い、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは各レッスンのパートごとまたはレッスンのまとめとして、内容要約をライティングとスピーキングで行う活動を継続している。1年次では、ALTとの協同授業でスピーキングに力をいれ、プレゼンテーションやディベートを取り入れて、生徒は活発に活動している。2年次では、11月よりコミュニケーション英語Ⅲの教科書を活用して、予習不要で1レッスンの全パート概要を2時間で把握し、その後に英語要約をライティングとスピーキングで行う活動を取り入れた。

異文化交流を深化する取組として実施していた学類研修が、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった代替として、国際教養学類にオンライン研修“STEE³M(Science, Technology, Engineering, Environment, Entrepreneurship, English, and Math)”を11月から導入した。グローバル・リーダーシップを育成しながら、理系的思考力やプレゼンテーション能力の向上を目指して、各グループ(2～6人)がアメリカに滞在している講師と英語でのやり取りを行い、それぞれの課題研究の深化を図るグループワークを実施した。

スピーキング活動を日常的に取り入れることにより、英語スピーキング力の向上を更に目指す生徒が増え、授業でも積極的に発言している。これらにより、今年度もスピーキング力やライティング力を競う各種コンテストでの優勝や英語ディベート大会全国大会出場などの成果につながっている。また、海外交流を目指し留学バーチャルフェアなどのオンライン交流の参加にもつながっている。CEFRのB1レベル以上の生徒の割合は、18%と昨年度より上昇している。

(3) 自主性・自律性を育成する取組

社会貢献活動の活性化について、2年次生を中心に実施予定であった学類の特色を生かした取組は、調査・研究・実践の時期が休校期間だったため実施できなかったが、2学期に計画をしていた1年次対象の活動は感染症対策を施し、320名を分散させて可能な範囲で実施できたことは評価できる。特に、ZOOMによるリモートで社会貢献活動に参加できたことは、今後の取組の方向性として、新たな実践方法の確立につながった。

部活動単位と個人で266名が社会貢献活動に関わり、昨年よりも約160名増加した。小規模人数や団体で参加できる活動や、自宅でできる社会貢献活動を見つけるなど、生徒が自ら考えて社会貢献活動に関わろうとする意識が芽生えていることがうかがえる。その中で、地域や地元企業と協働した社会貢献活動が3件実施できた。

生徒会活動や委員会活動の活性化では、昨年度組織した代表委員会と各種委員会とが連携し

て取り組む活動が、昨年度 6 件から今年度 12 件に増加した。これらの活動により、生徒会が主体となって各種委員会の間で議論が行われ、生徒によるアンケート調査や全校生徒へ呼び掛ける機会が増え、既存の行事、活動やルールについて全校生徒で考えることができた。また、学校行事の内容について、生徒が意見や考えを教員側へプレゼンテーションし、実現した企画があった。これも生徒に自律の意識が芽生えてきたことの表れと考えられる。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 地域密着の課題研究・GLOBAL I・II

「GLOBAL I」、「GLOBAL II」については、この 2 年間で取組が教員間に浸透してきた。少しずつではあるが、岡山城東高校ならではの課題研究の取組が形作られている。これらをまとめて持続可能な仕組み（城東メソッド）へと深化させたい。

また、ポートフォリオの充実は大きな課題である。生徒をより多面的に把握することで、生徒の変容を可視化できるようにすることがポートフォリオの目的である。来年度入学生から導入される、生徒一人一台端末の有効な活用も含め、ポートフォリオの在り方について、研究を進めたい。

企業訪問は、生徒が希望する訪問先を選択できるようにしたため、一層意欲的に取り組む様子が見られた。新しい訪問先の検討やキャリア教育を踏まえた取組に繋げたい。

(2) 異文化交流の深化

スピーキング能力の向上とその延長上にある英語でやり取りする能力を向上させるため、3 年間で身に付ける能力を明確化した CAN-DO リストを作成し全生徒に配布した。次年度は、この CAN-DO リストの授業内での具体的な活用方法を考察・検証し、生徒自身に 4 技能 5 領域に関する能力の到達度評価をさせる自己評価シートの作成を行う。また、公開研究授業をさらに積極的に行い、そこで得られる知見をシラバス、CAN-DO リスト、自己評価シートに反映させるとともに、授業改善の取組の中で、高度な英語運用能力の育成に繋がるスピーキングを中心とした言語活動、評価の手法を蓄積する。

コロナ禍において、新たに導入したオンライン研修「STEE³M」については、今後の有効な活用の在り方について考察・検証を行うとともに、他のオンライン異文化交流体験の方法についても模索する。

(3) 自主性・自律性を育成する取組

社会貢献活動では、1 年次では「小学生学習支援ボランティア」「献活デー」を軸に活動を定着させ、オンラインによる実践も研究する。2 年次では、本校の学類の特性を生かした活動の調査・研究を前期（4～6 月）で行い、中期（7～12 月）で地元地域や企業との協働による社会貢献活動に取り組ませる。

生徒会活動や委員会活動の活性化に関しては、創立 35 周年に合わせた校内ルールの見直しをはじめ、生徒会を中心として自律した活動が定着できるようにする。そのためには、現状の分析と生徒の意見のまとめ方、改善・改定のための主張方法（プレゼンテーション）を生徒のスキルとして定着させる。

【担当者】

担当課	岡山県教育庁高校教育課指導班	TEL	0 8 6 - 2 2 6 - 7 5 8 5
氏名	大塚 崇史	FAX	0 8 6 - 2 2 4 - 2 5 3 5
職名	指導主事（主幹）	e-mail	sido-koukou@pref.okayama.lg.jp